第014号(No1) 酒々井町郷土研究会会報 昭和55年1月15日(火)

酒々井町 郷土研究会々報

第14号

発行 酒々井町郷土研究会 酒々井町総務部

賀春

—昭和55年新春—

新年をむかえて

郷土研運営委員会

新年おめでとうございます。会員の皆さんには、よいお年をお迎えになったことと存じます。昨年度は世情騒然不愉快なニュースが新聞を賑わしておりましたが、本年は明るい、よい年を期待したいものです。

郷土研究会も発足以来、満三か年が過ぎまして、今年四年目を迎えることになりました。郷土研究会は郷土の歴史、地理、風俗などを学びながら、会員相互の親睦と理解を深め、楽しい生活をすることを目的として発足したものでありますが、発足以来順調な発展を遂げつつあります。会員数も年々増加いたしまして、現在は百八十余名となっております。本年度はさらにこの輪がひろがってゆくことが予想されています。

昨年度は県内・町内史跡見学会(六回)は教委共催で各地の史跡を訪ね、弁当を食べながら新・旧住民の交換の場ともなり、又郷土研を新しい方々に知ってもらうという一石二鳥の効果もあって有意義な楽しい会でした。

県外見学会……会を重ねるごとに申込者多数で企画する事務局一同にとって力のはいる行事です。これからは講義面にも力を入れて永続させたいと思います。

古文書学習会……十名余と人数は定員して、深みを求めての学習会は、予習と復習をおこたっては少々難儀な……郷土研の心臓部。

石仏調査……たくさんの行事の合い間を利用して町内各所に点在する石仏の調査、双体道祖神をはじめ馬頭観音など……と今年は地区ごとにまとめてみたいと役員の祀負は強い。

郷土史講座の開催

酒々井町の発行と中広い分野にわたり多くの実績をのこすことが出来ました。本年度はさらに会員各位の希望を大中にとり入れて行事の実行に役員一同心がけております。

五十五年の行事(これは昨年の運営委員会において計画されたものですが、これから総会の承認を得るわけです。)を少し御紹介いたしたいと思います。

一月二十六日 郷土研総会

日ごろお顔を見せて下さる機会の少ない方・又新しく入会希望の方々皆さんのらって盛大な大懇会を開きましょう。史跡見学、郷土史講座などの学習会より以上に、老若男女一同に集まっての雑談の一言のヤに生きた郷土の姿を発見するはずです

二月二十二日 七草かゆを食べる会

待ってました!と拍手を送って下さる会員のあなた、君がため春の野にいでて若菜摘む会を旧暦七日の日にひらきます。

せりなづなごぎょうはこべらほとけのざすなすずしろ

(外はもう春です)

二月十四日 郷土史講座

房総風土記の丘を訪ね、同館の学芸員の先生の講義をうけ、龍角寺・安食の鷲神社、印旛水門を見学予定

三月は野草の会

三月二十五日・二十八日は佐原地方の見学会で、文化財や博物館を見学し水と文化について勉強する予定です

本年度に東酒々井・中央台の宅造が急速に進み、新しい方々の入居も多いことでしょう。新・旧住民の融和をはかり住みよい郷土つくりに会員各位の積極的な御協力をお願い致します。

第014号（NO2）酒々井町郷土研究会会報　昭和55年1月15日(火)

石仏調査によせて
墓塔について

会員　田村秀雄

明けましておめでとうございます

会員の皆さまと一年間つつがなく過させて頂き有難く厚く御礼申し上げます。　さて本年度は、これまでの石仏調査の研究を更に総括上げの段階へ進めるべく　地区ごとにまとめる事に力を入れることになりました。皆様の御協力により三年計画で完成へ努力したいと思っております何卒よろしく御指導の程、お願い申し上げます。

身近な石塔として、墓塔について少々お話し致したいと思います。

墓塔とは埋葬地の上に建てる石塔である事は皆様も御承知の通りです。特に石製にこだわらず簡単な木の墓標もあったのではないかと思われます。奈良時代に藤原鎌足が没した時その子、定慧が多武峯に十三重を建て、その下に火葬骨を埋めた記録があります。勿論、埋葬地の上に印として自然石を置くぐらいの事はもっと古い時代から行われていたに違いありません。

鎌倉、南北朝、室町時代は五輪塔、宝篋印塔など色々な形で塔婆が造立されました。江戸時代以前の墓塔は、仏や菩薩を供養する事を目的とし、建立する事が仏に対する善根を意味し、この功徳により死者の宝や造立者の往生を期待したと思われます。亦よく墓塔に逆修と彫られているのを見る事があると思いますが、これは鎌倉時代後期より　逆修の信仰が盛んになり　死後の追善供養より生前に往生を願って仏に善根を施す事は七倍の功徳があると説かれています。そこで亡くなった親族の追善と造立者の逆修を兼ねるものも多く作られました。亦子が親に対して供養する事は順修といいますが、親が子に対して供養する事も逆修といいます。

中世も後半の室町時代に入ると庶民階級までが小型墓塔を造るようになり、江戸時代に入ると寺院と墓塔の内容に大きな変化が現われました。それは幕府が寺請制度を強く打ち出して、寺院を幕府体制の中に組入れるという大きな政治の流れの中で変ってきたのです。そしていかなる辺地の庶民も寺の檀家に属し、宗旨人別帳に登録されるようになりました。この制度は寺院の繁栄をもたらし墓塔を流行させる一端となり、現在のようにたくさんの石塔が建立されるようになり、亦戒名が重要視される様になったのです。

なお墓塔は、寛文年間あたりから急増され始め江戸を中心に明暦ごろ建てた石塔には大型のものがあり、これは築城の石材を流用したものと思われます。亦この様な事が伝わっているというのも、日本全国の城下町近辺の墓塔を見ると明らかです。

これら墓塔の形は
板碑型、光背型
板駒型、駒型
笠付型、柱状型
自然石型、礼彫型
箱型、雲頭型
程型　等に
分類されます。また墓塔に彫られた年号は、死亡時期を示すものと、供養時を示すものもありますので、よく注意して見るとわかります。

日本史年代、干支暦表の配布

郷土研究会では　会員の研究、見学の便を考えて携帯用の「日本史年代、干支暦表」（昭和五十五年基準）をつくりました。　この年代表は　徳川時代の文禄元年（一五九二）から昭和五十五年までの、西暦、年号、干支（えと）、逆算表、干支の正しい読み方、昔と今の時刻対照表がついておりますので　大変便利です。　全会員に二部づつ配布いたしますので、有効にご利用下さい。

又、今後資料として有効かつ必要なものの御希望があれば、作成してゆきたいと思いますので皆さんの声をどしどし事務局の方へお寄せ下さい。

TEL（九六）一一七一

第014号（No3）　酒々井町郷土研究会会報　昭和55年1月15日(火)

日記 (3) ところどころ

故 押尾翠村 記

毎回書くことも酒々井の方が近に感じられます。かねる方も読む方もの様

前号（第13号）では M13年の2月9日酒々井小学校の開校までを読んでいただきました。

（明治13年）
4月28日　より成田山開帳にて酒々井町村にて米百俵、この仮相場250円相納申候。

9月3日　午前9時半より12時まで大嵐（台風）に相成申候。

10月3日　夜12時より大風と相成、当町村の内潰家3軒、横町、新宿、円福院にて2人重傷、1人即死致し申候。

（明治14年）
6月29日　明治天皇　三里塚種畜場へ御遠乗り、供奉員は西伏見宮、徳大寺宮内卿以下　宮内省、勅、奏判任官、近衛将校、儀仗兵其他馬丁、平兵200余名、此節中川村、木内常右衛門方に御小休、同7月1日御帰りの節、同御小休遊ばされ候。

7月19日　より信州川中島善光寺様、泉光寺にて開帳なされ、同22日大竹村円光寺へ御越し相成申候

13仏掛物1幅、高橋八太郎より古物にて貰受け、御礼として酒二升代金40銭念仏講にて押申候。

（明治15年）
6月6日　明治天皇三里塚種畜場へ御遠乗り、供奉員は西伏見宮、北白川宮、西郷参議、徳大寺宮内卿、土方内務大輔、野津少将、川上陸軍大佐、山岡宮内少輔以下武官、山口、米田西侍従長、伊東1等侍医以下宮内省出仕奏、判任官及近衛将校、儀仗兵等260余名、此節中川、木内常右衛門方にて小休み同6月8日御帰りの節御小休み、この節門前の田に於て稲秋（田植）の景況を天覧に供し、鯉（大さ2尺）2匹、鰻10尾献上仕候処、越後縮1疋（2反）御手当金25両御下賜に相成、此外御註輦御便用品御預けの名義にて御遣に相成申候。

10月　墨区1034番地に墨尋常小学校を新築落成致申候、尤もこれまで泉伝院を仮校舎に便用致し居り申候

12月　農産物比較会を墨村、宗島新五郎養蚕室にて開催仕候、首唱者は宗島新五郎、鶴岡酒右衛門、鈴木半右衛門の3名に御座候。

（以下次号につづく）

郷土研回誌

◇十月十三日
古文書学習会　青年研修所にて八名

◇十一月十日
古文書学習会　青研にて十名

◇十一月十七日
郷土史講座「鷲尾余遺跡発掘と……」
発掘団長、渡谷先生の講演を教育委員会と共催。出席者二十名、身近な題材と熱の入った講義に質問も続々と時間いっぱいを過ごし再演を望む声多し。

◇十一月二十日
県外見学会は益子、笠間地方の見学、先着五十名は二日間で受付締切りの盛況に事務局は大あわて？参加者五十三名

◇十二月二日
町内史跡めぐりハイキング。十二月二十五日予定が雨のため十二月に決行。野草の会と合流して本佐倉城址を中心に巡る……新しい顔ぶれが多く再々のコースながら新鮮味のある集い。二十名

◇十二月八日
古文書学習会　青研にて六名

◇十二月十八日
運営委員会　青研にて十五名
五五年度の事業計画を中心に、反省会を兼ねて、又総会開催の打合わせ等、会場ささやかに志半会で御苦労さま。

第014号（NO4）　酒々井町郷土研究会会報　昭和55年1月15日(火)

55年1月 郷土研行事計画 3月

昭和55年	
郷土研総会	1月26日(土)　PM 1:00より　青年研修所 第4回、昭和55年度の郷土研究会総会を開催いたします。 これまで三年間の郷土研の歩みをふりかえり、反省、希望の声をおりまぜて、会員の皆さまの生の声を聞き合い、新しい年の目標を語りたいと思います。　普段お顔の見えない方又新しく入会を希望される方々…皆さんお誘い合わせの上たくさんの御出席をお願い致します。 尚、議題等については、追って御通知を差し上げます。
野草の会 会場、食器等の都合上30名までとします お申込みは 96－1171	2月22日(金)　新春七草かゆを食べる会 この日は旧暦7日、いにしえ人はこの日　寒中の中にもかすかに春を告げる水辺の野辺の草を摘み、トントンと刻みながら、悪い病気にかからぬように、と長寿と祈り　家中に福が舞い込みますようにと願いながら家族で若菜のかゆを食べたのでしょう。恒例の会の行事となりました。　どうぞよろしく――。 ○青年研修所　AM 11:00より　会費 500円 ○七草を用意出来る方はお持ち下さい。 ○台所をお願い出来る方は10時頃までに御出かけ下さい。
郷土史講座 お申込みは 96－1171	2月14日(木)　房総風土記の丘 見学 ○役場集合　AM 9:00出発　35名締切　会費1,000円 ○竜角寺、安食の蓋神社、印旛水門をまわります。
町外見学会 お申し込みは 96－1171	3月25日(火)(Aはん) and 28日(金)(Bはん)　佐原方面 ○役場集合　AM 8:30出発　各班35名　会費1,000円 ○大戸川浄土寺（古鐘と下総式板碑の宝庫）～大戸神社～佐原荘厳寺（十一面観音立像）～大利根博物館

後記

尋から三年越しの風邪で元気なし主婦の仕事も何とか一段落、このへんで一杯やって風邪をふきとばそうと元気込んで新年会に出かけたものの、日頃のつき合いの良さも手伝って五次会まで回り帰り着いたら午前様！あわや「授産願」一寸前の大目玉。カミナリの声もうつろに聞いて、うらむべきは義理と人情の板ばさみ？しかし次の日は涼しい顔で仕事に出かけましたゾ。　相変らず風邪亜し何とドジな一年のはじめ、いとあわれ。

思い立すままに一年の想い出を……。「酒々井町の家紋調査」が出来上がり、町制九十周年を記念しての音頭と町民歌に本会の巨匠先生と川名先生の歌が採用されたことが喜ばしい。何ようの実績。

会員の数も年々増え続けて、ふえていく見込み、見学会も満員御礼の盛況の体……ますます「がんばらなくちゃ」と張り切ってみても、年とともに衰えり、頭痛・腰痛おまけに年中風邪のひきっぱなし。元気なのは相京会長ただ一人。早寝早起き、散歩と晩酌が健康のヒケツとか。会長、今年もよろしく、皆さん応援の程お願いいたします。(M)

総会収支会計報告

会費	132,500 (53人×2500)
バス代	100,000
昼食	32,400
ジュース	10,200
謝礼	6,000
	148,000
	△ 16,100

不足分は郷土研より補助いたしました

係　京増